

【2015年8月12日】

中部大学の伝統行事・・・地位が人を作り、環境が人を育てる

みなさん、こんにちは。春学期が終わり、大学は静けささえ感じています。今日は雲が多く、お日様が顔を出せなかったことが影響したのか、久しぶりに気温が35度を下まわっています。

さて、本メッセージも4回目。今回は中部大学の伝統行事について書きたいと思います。

中部大学には多くの行事がありますが、その中で最も伝統があるのが『フレッシュマンキャンプ』です。フレッシュマンキャンプとは、文字通り“フレッシュマン(1年生)”を対象に行うもので、中部大学創立以来続く行事です。3泊4日、寝食を共にするスケジュールを通じ、メンバーシップやリーダーシップ、リーダー候補を真のリーダーにするためのフォローアップの養成が行われます。今年で54回目を数え、8月4日～7日に行われました。フレッシュマンキャンプのビッグイベントは“山登り”、“穂高鍋”、“キャンプファイヤー”で、上級生リーダーが企画・運営します。私も2008年から教職員カウンセラーとして参加しています。また、このキャンプは上級生リーダーが育つ重要な行事でもあるのです。コモنزサポーターの今泉くんが、今年のフレッシュマンキャンプの上級生トップリーダーにいましたので紹介します。



伊藤(左)、コモنزサポーターの今泉くん(中央)、キャンプ長の栗濱学生部長(右)

トップリーダーとは、リーダーの最高学年を言います。リーダーは各学年4人で構成されています。リーダーはその年に参加したフレッシュマンから上級生リーダーが選ぶ形で受け継がれています。今泉くんもこの方法で選ばれ、今年最終学年を迎えました。実は、今泉くんがフレッシュマンで参加していたときの事を覚えています。穂高鍋を作る際、火起こしがとても上手かったのが印象的でした。あれから3年の月日が経ち、今回のリーダー姿に



1年生参加時の今泉くん(最前列左)

嬉しくなりました。



キャンプファイヤー終了後の今泉くん(右)と、伊藤

リーダー1年目(2年次)は初めてのリーダーであり、どこか不安そうな顔が見え隠れしていました。リーダー2年目(3年次)、昨年の経験から動きが把握できているのか余裕さえ感じられましたが、天候が悪かったのもあり、緊張した顔が続いていました。そして今年、トップリーダーとなり後輩リーダーに指示する姿とフレッシュマンを気遣う姿があり、昨年までの終止緊張した顔とは違い、時折笑顔を見せる姿がとても清々しく映りました。そして何より、今年は後輩リーダーが今泉くんを信頼してついていっている姿がありました。この後輩リーダーというフォロワーの存在こそが、真のリーダーである証しだと感じました。どんなに高邁なリーダーのイメージを追い求めても、またどんなに高尚な理念を掲げて、信頼してついてきてくれる『フォロワー』がいなければ、リーダーとは呼べないと教えられました。今泉くんとは、4月から commons センターで週に数回顔を合わす様になり、フレッシュマンキャンプで1年生の時から面識があったので、この成長に喜びを感じました。

今泉くんの成長から思い出したことがあります。元プロ野球選手でヤクルト・阪神・楽天で監督を歴任した野村克也氏の名言に「地位が人を作り、環境が人を育てる」という言葉があります。人は初めからリーダーなのではなく、そういった立場に立つてこそ、初めてその立場の目線になり、責任感を持ち、成長するのだとあらためて感じました。

真のリーダーへと成長した今泉くんですが、その環境も特筆すべきです。今回のフレッシュマンキャンプでは、リーダーをも動かしてしまうフォロワーシップ、つまり支える力を持つ周りのリーダーメンバーの存在も忘れてはなりません。今年のフレッシュマンキャンプにおける上級生リーダーのチームには「フォロワーシップ」が完成したのでしょうか。

フレッシュマンキャンプが終わり、私は今泉くんに聞きました。「今年のフレッシュマンキャンプは“成功”でしたか？」と。今泉くんは笑顔で「“成功”です」と答えてくれました。フレッシュマンを楽しませるという目標が達成され、“成功”となりました。先に今泉くんの成長を書きました。皆さんも感じていると思いますが、成功と成長はきちんと区別した方が良いと思っています。「来年こそチャレンジしたい」「こんな工夫ができる」「今回はいろんなことを学んだ。次に活かす」と、終わったところから未来を向いているのが成長だと思います。成功はつかんだ瞬間に過去になります。だからこそ、挑戦して挫折し、それでも前を向いていく力を積み上げ、大きな成長を遂げてほしいと思います。

commons センターは皆さんの成長を応援します。秋学期の企画に期待してください。